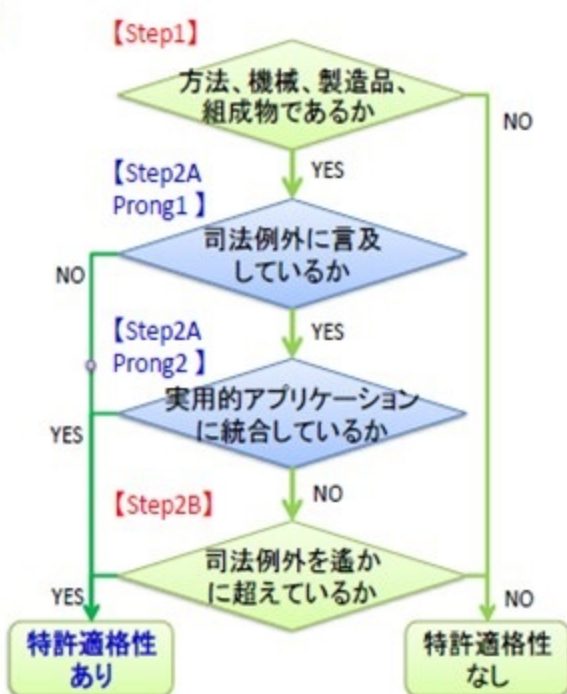
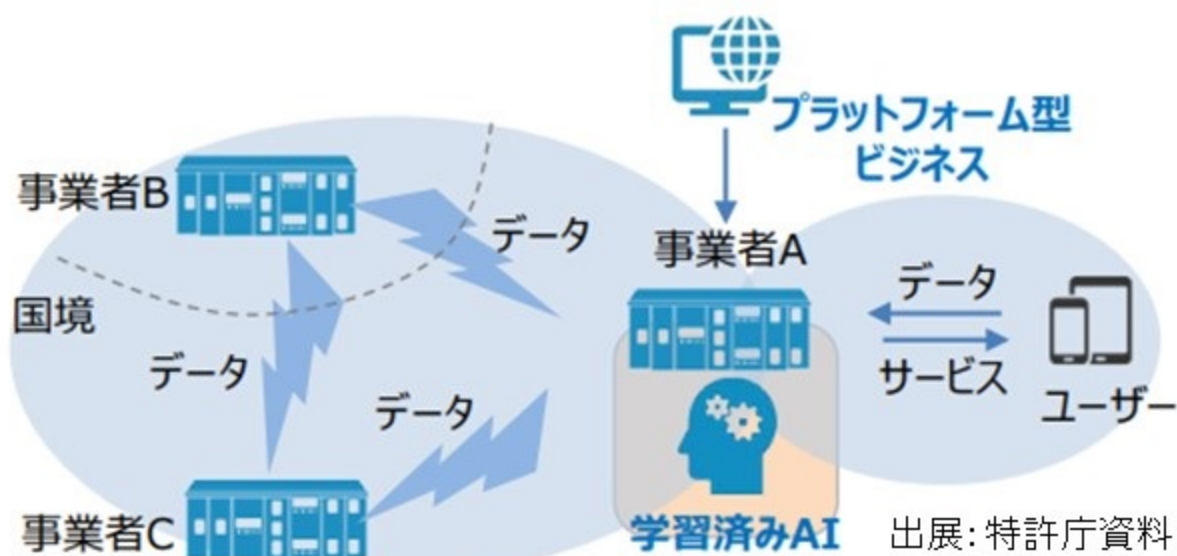


# AI関連発明の発明該当性の拒絶を克服するには？

# COVID19以降のソフトウェア技術/特許の在り方とは？



- 大量のデータを処理することが明確になるよう限定する
  - 例) SNSから取得したデータがAIに入力される
  - 例) テキストマイニング分析によりデータを処理する
- 処理する具体的なデータを明記して限定する
  - 例) 数学的なパラメータではなく、アプリケーションで扱うデータ

- 特許適格性あり**
- ★「メンタルプロセス」ではない
  - ★「数学的概念」ではない
  - ★クレーム全体として「実用的アプリケーションに統合」している

## コロナ禍の影響

a) 取るべき特許と取っている特許のずれ



b) 特許のトレンドの変化が加速



# ソフトウェア分野において特許出願する意義が弱まっている？

# 中国企業のビジネスと特許出願動向の特徴は？

OSSを特許出願する意義はあるのか？	ビジネス関連発明は特許可否が予測困難？	SW発明の特許侵害を立証できるのか？	特徴に基づいた適切なGUIの保護方法とは？	SW特許は産業の発達に寄与しているのか？
<p>特許?</p> <p>疑問点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>独占/排他に興味がないOSS開発者も納得する、特許出願の意義とは？</li> <li>OSS特許における攻めのケース/守りのケースとは？</li> </ul>	<p>ビジネス関連発明</p> <p>ビジネス方法</p> <p>ICT (ハード×ソフト)</p> <p>疑問点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「全体として自然法則を利用」とは？</li> <li>ハードウェア協働要件は必要なのか？</li> <li>ビジネス方法自体の内容を示す文献がなければ特許になってしまう？</li> <li>クレームの文言から、ビジネス方法の特徴か、技術的特徴かを判断できるか？</li> </ul>	<p>内部処理</p> <p>検証対象の典型例</p> <p>製造方法 (中間生成品) ソフトウェア</p> <p>疑問点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SW発明の特許権侵害をどうやって発見するか？</li> <li>内部処理を立証できるクレームの書き方は？</li> <li>新設された検証制度の実効性は？</li> </ul>	<p>特許権 意匠権</p> <p>疑問点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GUIにおいて特許出願/意匠出願のそれぞれが有効になるケースとは？</li> <li>流行り廃りに左右されない強い権利を取るには？</li> </ul>	<p>時価総額ランキング上位10社のうち7社が米・中のIT関連企業</p> <p>ソフトウェア製品</p> <p>製品ライフサイクルの短縮化</p> <p>疑問点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本はSW特許が市場の優位性確保に繋がっていない？(特許出願件数では米・中の該当する企業と遜色ない)</li> <li>事業の拡大期 (PLC) と特許の保護期間とにズレ？</li> <li>Open Innovationの時代に独占権/排他権としての特許の活用は限界？</li> </ul>

ブロックチェーン	BtoB Fintech	小売・販売関連	ロボット	5G関連の出願動向
<p>日米を凌駕する圧倒的な出願件数！</p> <p>日米中ブロックチェーン関連特許出願出願年別件数</p> <p>出願年</p> <p>■日本 ■アメリカ ■中国</p> <p>アリババ vs テンセントの出願競争！</p>	<p>BtoB Fintechサービス市場が急拡大</p> <p>Fintechサービス</p> <p>個人向け資産管理 個人向け融資</p> <p>資本調達 決済送金 保険</p> <p>B2B領域</p> <p>トレーディング 法人向け融資</p> <p>ビッグデータ AI ブロックチェーン...</p> <p>中国では、B2B領域のFintech出願は増加中！</p> <p>年別出願件数</p> <p>2015 2016 2017 2018</p> <p>調査の狙い EC最大手アリババ社の特許戦略を分析</p> <p>↓</p> <p>ユーザ向けサービスの出願戦略へ活用</p>	<p>アリババ社の小売・販売分野の特許出願年数別件数</p> <p>件数(百件)</p> <p>2016年 2017年 2018年 2019年</p> <p>■その他 ■UI</p> <p>調査の狙い</p> <p>EC最大手アリババ社の特許戦略を分析</p> <p>↓</p> <p>ユーザ向けサービスの出願戦略へ活用</p>	<p>サービスロボット市場が急拡大</p> <p>国策で市場拡大を後押し</p> <p>出願件数は増加中</p> <p>「中国製造2025」重点分野の一つがロボット</p> <p>調査の狙い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国ロボット市場は今後どうなるか？</li> <li>欧日企業とどう戦うのか？</li> </ul>	<p>5G関連のIPCとしてH04W74/08が筆頭に付与された出願に特化した動向調査</p> <p>ETSI New Radio Proj. を調査</p> <p>中国出願件数</p> <p>2010年~2019年の動向ではHUWEI、ZTEの順で件数が多い。</p> <p>両社とも2014年前後から増加傾向にあり、2015年に発表の「中国製造2025」の影響を受ける。</p>